

# 久村鉦山跡選鉦場地区発掘調査 現地説明会資料

2016年12月17日(土) 午前10時～12時  
島根県教育庁埋蔵文化財調査センター

## 1. はじめに

島根県埋蔵文化財調査センターでは、国土交通省から委託を受け、湖陵多伎道路予定地内にある久村鉦山跡選鉦場地区(出雲市多伎町久村)の発掘調査を実施しています。

今回の調査により、県内屈指の砂鉄鉦山「久村鉦山」の中心的施設である選鉦場とその関連施設の様子が明らかになりました。

## 2. 「久村鉦山」の沿革

「久村鉦山」は、1939(昭和14)年から株式会社日立製作所安来工場(現・日立金属株式会社安来工場)が開発を始めた砂鉄鉦山です。

1939(昭和14)年に、出雲市多伎町久村で鉦業権を設定した株式会社日立製作所安来工場は、1940(昭和15)年に「久村鉦山」として開発をはじめ、1943(昭和18)年から生産を始めました。埋蔵量は100万tと推定されました。

最盛期(1944年頃)には採掘と選鉦に約200名が従事し(一説には400～500名)、月産400～500tの精鉦を生産しました。敗戦(1945(昭和20)年8月)と同時に操業を停止し、1949(昭和24)年、過度経済力集中排除法により、久村鉦山の閉鎖処分命令が下され閉山しました。

## 3. 調査の成果

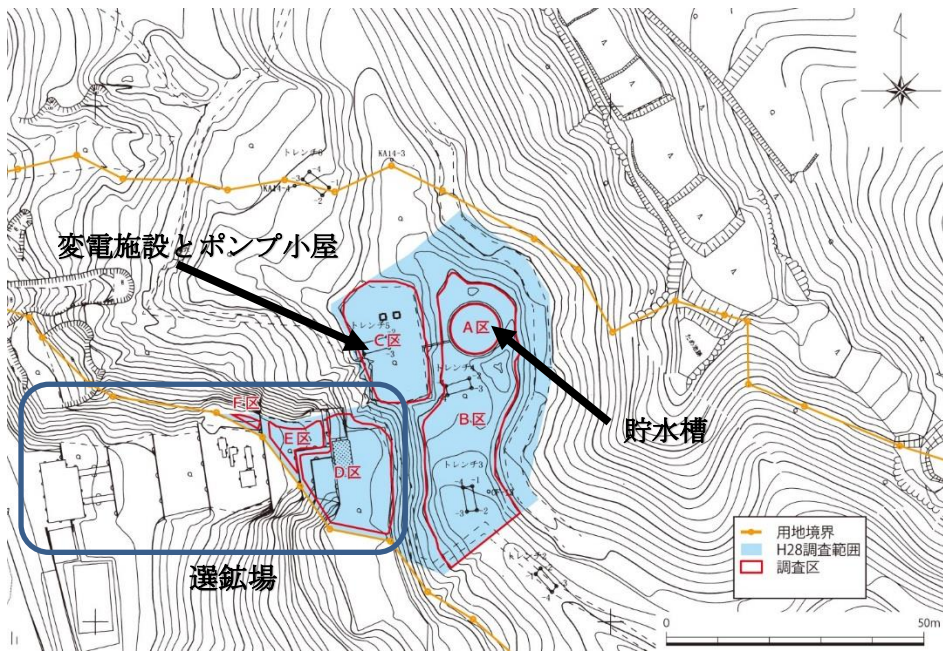
鉦石を砕くために使用された選鉦場をはじめ、それに関連する貯水槽、変電施設、ポンプ小屋などの各種施設の配置が明らかになりました。また、選鉦場に供給された鉦石(固結砂鉄)が出土しています。この鉦石は堆積した砂鉄(砂鉄層)が固まった一種の砂岩です。

「久村鉦山」に関する当時の記録によれば、選鉦場は鉦石を細かく砕く工程が行われた重要な施設で、大量の電力と水が消費されました。また、ポンプ小屋に組み上げられた水は、直径10m、深さ3.5mの貯水槽に蓄えられ、配管で選鉦場に送られていたようです。変電施設はポンプ小屋をはじめ、選鉦場の場内に設置された鉦石を砕く粉砕機やベルトコンベヤーなどの大型機械に電力を供給した施設と考えられます。

## 4. まとめ

「久村鉦山」は太平洋戦争時に、陸海軍の航空機エンジンに必要な特殊鋼材の生産を支えた砂鉄鉦山でした。また、固結砂鉄という特殊な鉄鉦石の選鉦場としては、全国で初の発掘調査例となるものです。発掘調査によって、「久村鉦山」の沿革や操業当時の様子が記された資料との比較研究が可能となり、選鉦に関する具体的な工程を知るための貴重な手がかりを得ることができました。

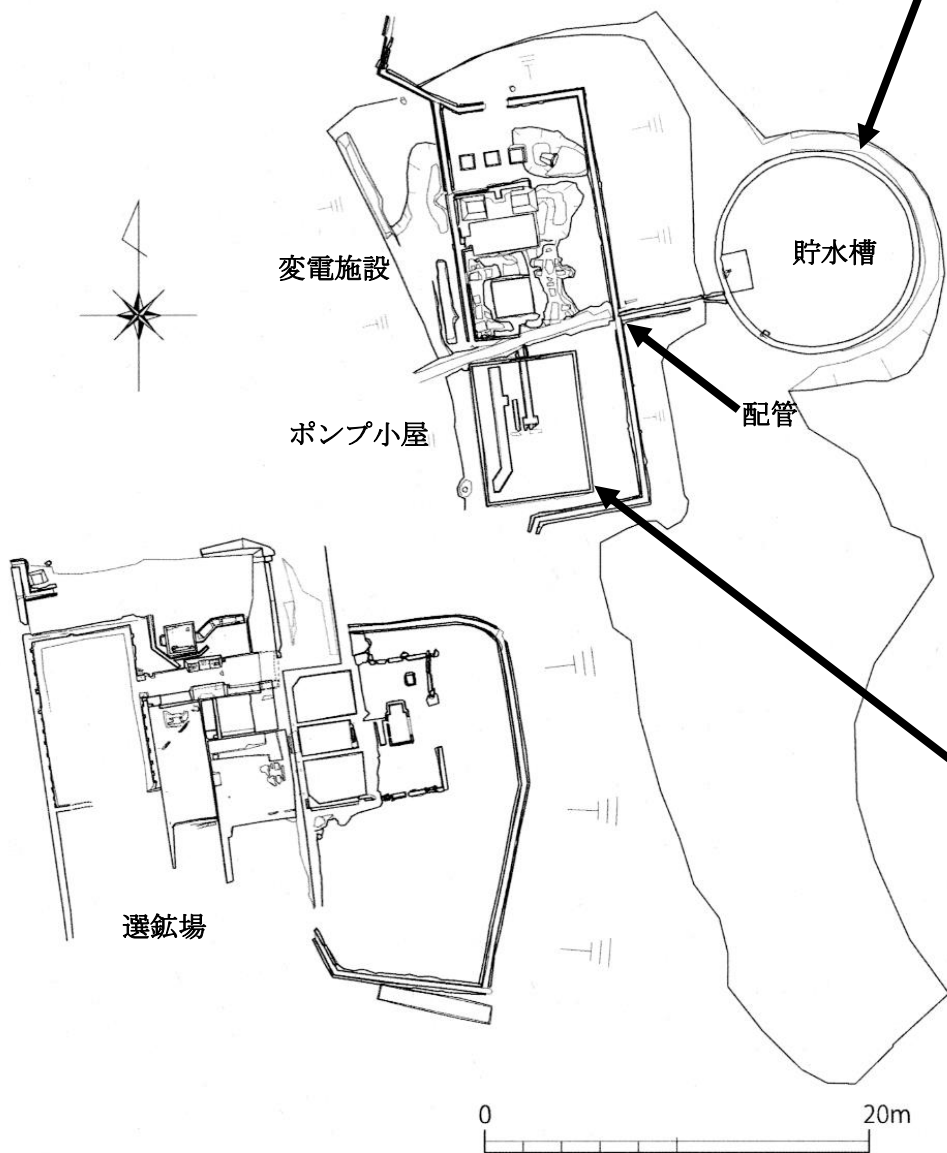
久村鉦山跡選鉦場地区は、良質な鉄源を有する島根県ならではの遺跡であり、戦時下に、国策による鉄鋼増産が行われた様子を知ることができる重要な近代遺跡といえるでしょう。



久村鉦山跡調査範囲



貯水槽



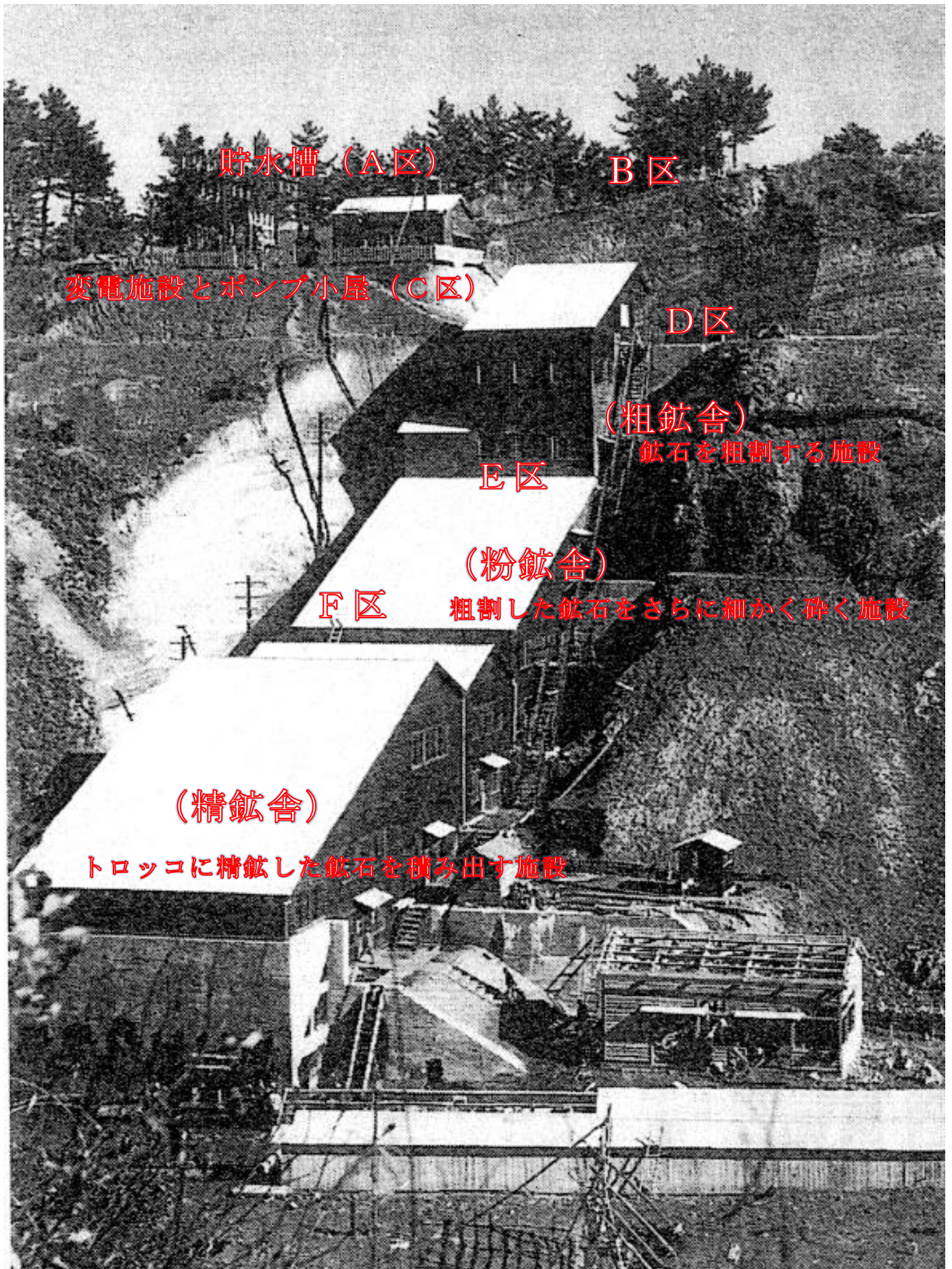
久村鉦山跡 遺構配置図



変電施設とポンプ小屋の基礎



選鉱場 (D区・E区・F区)



ありし日の久村鉦山選鉦場全景 (『安来工場百年の歩み』より転載)